

# Pain

ペイン

わたしをハメて

松本未来  
中泉英雄  
藤本由佳  
吉家明仁

小室友里  
下元史朗

オポルト映画祭審査員特別大賞受賞

ヴェネチア国際映画祭・批評家週間、  
トロント国際映画祭ほか世界14カ国主要映画祭招待上映

石岡正人 第一回監督作品

脚本:石岡正人 / 撮影:鍋島淳裕 / 録音:山方浩 / 編集:深野俊英 / 音楽:遠藤浩二

[www.goldview.co.jp](http://www.goldview.co.jp)

子供もみれる大人の映画。

PG-12

35mm/color/mono/114 min/vista ©2000 Gold View Company Limited

# Pain

ペイン

誰も逃れられない罭

社会学者・宮台真司

PG-12

- 援助交際のピークは96年のこと。当時は「エンコウ」という略称もなかった。それから5年。数々の援交映画が撮られた。代表的なのは原田真人監督の「バウンズkoギャルズ」と、庵野秀明監督の「ラブ&ポップ」だろうか。
- でも、違和感がある。「バウンズ〜」も「ラブ〜」も共通して、援交を「通過儀礼」として扱っていた。たとえば、援交少女が「暴力という壁」に突き当たって「気づき」に至るという図式が、双方に共通する。ありそうに見えて、真っ赤な嘘だ。
- 現実の彼女たちも、男に拉致られたり、逆ギレした男にやり逃げされたりすることが珍しくなかった。でも彼女たちは「こんなことをしてれば十回に一回はヤバイ目に遭うよ」と全然懲りないのだ。統計的な歩留まりで(!) 損得を判断するだけである。
- 過去の援交映画は「トンチンカンな青春映画」だったということだ。「若い頃は誰でも…」はあまりに人畜無害である。ところがそこに初めて、通過儀礼をモチーフとする青春映画の枠に収まらない、真の援交映画が登場した。石岡正人監督「ペイン」だ。
- AV監督歴10余年に及ぶ石岡監督は、現場を知るがゆえにこそ感じざるを得ない痛み(ペイン)を、みごと作品化した。援交取材を何年も続けてきた私自身も、同じ痛みを感じつつけている。観客もまた、痛みを自分のものとしよう。それはなぜか?
- 田舎から出て来た真理と敦は、対照的な道をたどる。敦は、波瀾万丈の都市的現実の中、「スカウトマンの義弥」に吸引され、都市に染まっていく。他方の真理は、決して染まらない。それどころか、都市に染まりきった「パー券売りの可奈」を、逆方向に呼び戻す。
- 都会を生きる以上は、染まった方が得だ。乱舞する都市的記号に紛れ込めるカルイ存在になったほうが楽である。とはいえ、そうして都会を上手に生きられるようになると、確実に何かを失う。でも、失ったことさえも忘れてしまえば、痛みは感じない。
- だが、いつまでも忘れていられるか。現にパー券売りの可奈は、真理に、過去の自分——豊かだった自分——を見出し、リグレット(後悔)に駆られるだろう。実際、統計的にも風俗勤めは2年と続かず、援交は1年と続かない。永久にカルクはいられないのだ。
- しかし、それで話は終わらない。映画のラストを見よ。あの可奈が、髪を黒く戻し、制服姿で中年男の前にたたずむ。「少女」に戻った可奈の、痛々しき危うさよ。まるで都会の「餌食」だ。可奈が、真理の方向に吸引されるのは、自殺行為なのである。
- もはや、痛みの意味は明白だ。私たちに選択の余地はない。自分を守るには都市的記号となるしかないのだ。だが「良かれ」と思った都会への適応が、「こんなはずじゃなかった」感を帰結する。都市的現実が強制する、誰も逃れられない罭なのだろうか。

——せつないほど、空虚が濃んでいるといえいいか。路上を嗅ぎ分け、取り引きするスカウトマンも風俗嬢も、絶望を売り、傷みを手にいれる。金でも欲望でもなく、ただ生き延びるための徒勞に佇む寂しさ。ただあることのリアルさ。 藤沢 周(小説家)



PAIN <ペイン> 第21回オポルト国際映画祭・審査委員特別大賞受賞 2001/カラー/ビスタサイズ/1時間54分<PG-12> ©12歳未満の方には、なるべく保護者が同伴して下さい。  
ヴェネチア国際映画祭・国際批評家週間 トロント国際映画祭・ディスカバリー部門他全世界14ヶ国の主要映画祭にて招待上映中

街の裏側に生きる人々の愛と金、そして痛みを等身大で描いた日本版『KIDS』行き場所が見つからないまま都会をさまよう真理(17)と敦(20)。やがて真理は「パー券」を売る少女・可奈(15)と知り合い、ストリートキッズ達の群れに引き込まれて行く。そして敦は、AV女優の美樹に逆ナンバされ、ズルズルとAVスカウトマンの世界に足を踏み入れる。真理、敦ともそれぞれの抛り所を必死で探しながら、価値を揺るがす人々の出会いの中でお互いを傷つけ、お互いを見失っていく…。スカウトマンの世界を題材に、東京の裏舞台で風のように刹那的に、漂うように生きる若者達をドキュメンタリー・タッチで描く。監督の石岡は、この映画の中に出てくるような人々の圧倒的なリアリティーを作品化するべく製作を決意。本作が劇場用映画デビューとなる。

松本未来 中泉英雄 藤本由佳 吉家明仁 小室友里 下元史朗  
プロデューサー:朱京順 脚本・監督:石岡正人 撮影:鍋島淳裕 録音:山方 浩 編集:深野俊英 音楽:遠藤浩二 衣装:小倉久乃 ヘア&メイク:高久保愛子 制作担当:梶野 考 助監督:黒川幸則  
製作:ゴールド・ビュー 配給:アルゴ・ピクチャーズ 予告編タイトル曲:「she said」 by icha (NOOO RECORDS)

2002年2月9日(土)~22日(金)  
レイトショー (PM8:05~9:59)

HERE!!

ホワイティ梅田泉の広場M-10右とがる南へ5分  
扇町ミュージアムスクエア  
06・6361・0088 www.oms.gr.jp